

京都における第22回日本・スペイン・シンポジウムを2021年開催で調整

日本・スペイン・シンポジウムの共同座長を務める佐藤義雄住友生命保険相互会社会長とジュセップ・ピケ西日財団理事長は、新型コロナウイルス感染症の流行の現状に伴い、毎年恒例で開催している日本・スペインシンポジウムを本年は開催せず、第22回日本・スペイン・シンポジウムは2021年開催で調整することを発表する。

両座長は、西日財団、京都府、両国の外務省といった日本・スペイン・シンポジウムの全ての関係者との協議を踏まえ、同感染症の国際的な移動への影響、会合への制限、同感染症の数ヶ月後の動向に関する不確実性につき検討した。

同時に両座長は、2021年に日本の歴史的な地域である京都、中でも先端研究が行われている関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）で第22回日本・スペイン・シンポジウムを成功裏に開催するという決意を公にした。

ジュセップ・ピケ西日財団理事長は、「我々は、魅力的な街である京都で次回日本・スペイン・シンポジウムが行われることに特別な期待を抱いている。日本・スペイン・シンポジウムは、地球規模の課題を主たる議題とし、国際的に著名な専門家と2日間にわたる議論を行うという非常に貴重な経験ができる重要な枠組みである。」と述べた。また、佐藤義雄住友生命保険相互会社会長は、「京都及びけいはんな学研都市との協力のもと、2021年に京都のホスピタリティを持ってスペインの代表団をお迎えできるよう、入念に準備を進めていきたい。第22回日本・スペイン・シンポジウムはコロナウイルス後の世界を分析するため、そして、両国のさらなる協力につながる経済的・社会的情勢を展望するための絶好の機会となるだろう。」と述べた。

ジュセップ・ピケ西日財団理事長と佐藤義雄日本経済団体連合会ヨーロッパ地域委員会委員長・住友生命保険相互会社会長は、京都で次回日本・スペイン・シンポジウムの共同座長を務める予定である。

日本・スペイン・シンポジウム

1997年の初開催より、日本・スペイン・シンポジウムは、日本とスペインの関係にとって戦略的に重要なテーマに関して、市民社会及び両国の政府の代表者間での対話及び意見交換を行う枠組み。両国間の広報文化外交の主たる事例であり、両国の財界人、政治家、有識者等、各界で活躍する顔ぶれが一同に会する毎年1回の重要なシンポジウム。毎年1回、両国交互に異なる都市で開催され、両国外務省からの支持も得ている。第21回日本・スペイン・シンポジウムは、2019年11月25日から27日まで、スペインのバレンシア州カステジョン・デ・ラ・プラナ市において開催され「ソサエティ5.0：人間性を中心に据えたテクノロジー社会」をテーマに議論が行われた。

西日財団

西日財団は、外務・EU・協力省の支援によって2001年に設立され、両国の広報外交を行う非営利の財団。同財団は、我々の社会の利益促進に向けた両国間の知見及び関係の強化を目指し、調査と分析、人的交流、広報外交、情報提供といった様々な活動を行っており、日本・スペイン・シンポジウムのスペインにおける常駐事務局。同財団は、企業、大学、等、両国の関係強化を促進する団体で構成されている。